

令和5年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

		課題番号	23837277
研究テーマ名	我が国の持続的で多様な農業に関する研究		
委託研究課題名	都市・都市近郊における持続的で多様な農業の役割に関する研究		
研究実施期間（西暦）	2023年度 ～ 2025年度（3年間）		
代表機関・研究開発責任者	国立大学法人 千葉大学大学院園芸学研究院食と緑の健康創成学講座 教授 吉田 行郷		

1 研究の進捗状況等

研究実施期間が実質2ヶ月程度に限られたことから、一部実施できた現地調査以外は、来年度からの研究の本格的な準備にとどまった。

それでも、2024年1月11日に、このプロジェクトのキックオフ的なセミナー「体験農園等による食と農が持つ癒し機能の効果的な発揮に向けて」を千葉大学園芸学部で開催することができた。このセミナーには、オンラインも含めて120人以上の参加があり、セミナー終了後のアンケートでは、回答者の80%から「非常に満足」との回答があった。

以下、個別研究テーマごとに研究の進捗状況について報告する。

① 体験農園等による食と農が持つ癒し機能の効果的な発揮に関する研究

農家が行っている体験農園（緑と農の体験塾・加藤農園）と地方公共団体が行っている体験農園（杉並区立農福連携農園すぎのこ農園）の現地調査を行うとともに、それらの東京都における分布状況について把握しリスト化するとともに、世田谷区については地図情報化した。

体験農園等のプレイスメイキング機能について、次年度調査に向けたアンケート調査を実施し、次年度調査の調査項目を策定した。

ユニバーサル農園についても、その形成過程を実証的に明らかにするため、文献調査を行うとともに、現状を取りまとめて、2024年度1月11日に開催した本プロジェクト主催のセミナーで報告を行った。ユニバーサル農園の代表的な事例（こえどファーム（埼玉県川越市））の代表者を招いて、その取り組みについて報告してもらった。また、ユニバーサル農園のモデルとなり得るオランダのケアファーム（6農園）に対して現地調査を行った。

都市域における農地が超高齢化社会における定年退職者およびその予備軍の社会参加の場および健康機能の向上に寄与することを明らかにするために、一都三県の、55-84歳の男女約1800名を対象としたオンラインアンケート調査を実施した。

② 体験農園のユニバーサル化に関する研究

全国の先進的なユニバーサル農園と一般的な体験農園等の比較分析用に、設立目的・経緯、管理運営体制、作業・施設環境、農園の運営者・支援者・利用者、健康改善

効果等に関する調査票を作成し、以下について研究・調査を行った。

- (1)ユニバーサル農園（3件）：デイサービス2@高槻市，園芸福祉農園1@川越市。
- (2)体験農園（2件）：公的主体開設の市民農園（岡山市：牧山ラインガルテン、広島市：農林水産振興センター）。ユニバーサル化の必要要件、民間と公営の体験農園に求められるユニバーサル化の違いなども調査。
- (3)ケアファーム（6件）：オランダ・ケアファーム連盟作成ハンドブック（Handboek landbouw en zorg versie 7.2 juli 2022）和訳、オランダ・ケアファーム関連文献調査、オランダの訪問先ケアファーム資料を作成。ワーヘニンゲン大学にてケアファーム研究第一人者のMarjolein Elings氏よりケアファーム、ソーシャルファームの情報を得てケアファーム調査を実施。

③ 高齢社会における新しいケアの創出という農の役割に関する研究

2020年より、認知症の人を対象にした農を用いた新しいケアのプログラム開発とエビデンス創出が行われており、今後は都市部での普遍化を行う段階である。2023年度はURと板橋区と研究機関の連携協定の締結が行われた。それに基づき、会議体を形成し、さらにURと研究機関の実務協定も締結した。関係する住民（支援者）に対して厚生労働省認知症総合戦略推進事業のメニュー「認知症サポーター活動促進事業」で規定される認知症サポーター養成講座およびステップアップ講座を実施したことで、住民がケアスタッフとなった。実際に小規模なパイロットファームを実際に作成し、説明会を行い、作付けを行った。

④ 日本型CSA等による都市住民が支える有機農業の展開に関する研究

有機農業、食農連携に関する文献調査と現地調査を実施し、日本型CSAの可能性を検討した。現地調査は食農連携という観点から幅広く捉え、オーガニックスーパーによる有機農産物の地産地消（愛知県名古屋市・旬楽膳）、長野県における有機給食およびオーガニックビレッジの取り組み（松川町産業観光課、長野県農業振興課環境農業係）、耕す市民を育てる農産物直売所（愛媛県今治市・さいさいきて屋）、食と農をつなぐコーディネーターの役割（兵庫県神戸市・一般社団法人農サイド）、ラインガルテンをつうじた都市住民による有機農業への理解（長野県松本市四賀地区）を対象に実施した。

⑤ 都市型農業公園等による災害対応等の多面的機能に関する研究

世田谷区の農業公園（次大夫堀公園・里山農園、喜多見農業公園、瀬田農業公園、桜丘農業公園）の管理運営体制やイベント内容、栽培している野菜、農業公園での防災イベントの内容、管理団体の情報を整理した。また世田谷区みどり33推進担当部公園緑地課農業公園担当者にヒアリング調査を行い、世田谷区の農地保全の施策や農業公園の管理運営の特性、農業公園を通じた地域コミュニティや子ども食堂等地域福祉との連携を確認した。その他、桜丘農業公園夢育て農園や埼玉県見沼たんぼで農業イベントを実施している農業法人十色にヒアリング調査を行い、農業公園等を拠点とした教育プログラム内容の情報を得た。

また、道の駅において多面的機能調査にかかわる基本的な情報を聞き取り、次年度調査のための調査項目を策定した。

（注1）課題番号は、e-Radで付与される課題ID（8桁）を記載すること。

（注2）全研究期間をとおしての研究全体の進捗状況を5行程度簡潔に記載してから、当該年度に研究を実施した研究項目ごとの進捗状況を3～5行程度簡潔に記載すること。

（注3）学会発表、論文発表等成果等公表の状況をe-Radで報告するとともに、リストを添付する

こと。
(注4) 農林水産政策研究所のホームページにて公表するため、未公表データや知的財産等に関する事項については、十分に注意して作成すること。また、公表できる内容のみを記載すること。